

第3回駿河海岸保全検討委員会 議事要旨

日 時 平成 28 年 9 月 27 日(火) 15:00～17:00
場 所 JR 静岡駅ビル PARCHE 7 階第 1,2 会議室
出席者 東京大学大学院 佐藤教授
名古屋大学大学院 水谷教授
静岡大学 原田准教授
国土技術政策総合研究所 加藤海岸研究室長
静岡県交通基盤部 長繩河川砂防局長
中部地方整備局河川部 松浦河川調査官
中部地方整備局静岡河川事務所 犬飼事務所長

< 議事 >

○委員会規約案について

- ・委員会規約の変更が承認された。

○粘り強い構造の堤防模型実験について

- ・粘り強い堤防の基本構造を選定するにあたり、被害軽減額を算出する津波浸水シミュレーションの計算条件（破堤条件）や模型実験実施時における裏法被覆工の効果について確認された。
- ・①-1-3（裏法尻部保護工まで実施）を基本構造とする事務局案について最適案とする。
- ・ただし、住民目線に立ち、浸水被害軽減の効果の大きい①-1-4（地盤改良まで実施）を選択しない理由について、次回委員会までに再整理すること。
- ・整理にあたっては、効果の比較一覧において、国による海岸事業費のみならず市町の実施する盛土を加えた全体事業費や整備期間なども整理されたい。また、市町の実施する盛土の効果も含め、①-1-3 を最適案とする理由を整理されたい。
- ・破堤遅延時間の差による被害軽減額の観点からも整理をされたい。
- ・模型は 1/25 スケールであり、また、表法面からの浸透も考慮されておらず、実験による 0.5 分の違いは小さな変動の範囲と考える。今回、初めて「時間（破堤遅延時間）」という試みで整理されているが、破堤遅延時間はあくまで評価のための道具であり、この数値が一人歩きしないよう、十分な注意が必要である。

○洗掘シミュレーションについて

- ・洗掘シミュレーションについて概ね再現性が確認されたことから、今後は次回委員会に向けて、実波形を想定した現地スケールでの検証や植生による侵食速度の低減効果について検証する。

○離岸堤・養浜計画（汀線変化）について

- ・ 離岸堤・養浜計画（汀線変化）の内容については、改めて次回以降の委員会で審議することとし、次回以降の委員会に向けて、以下について整理する。
 - 市町が実施する盛土の整備と、必要浜幅確保のための離岸堤整備、養浜の必要性。
 - L2 津波が来た場合の有脚式離岸堤への影響（考え方）。
 - 17年の漂砂管理計画の事後検証として、予測以上に汀線が前進していることの分析。
 - 土砂供給損失条件や沿岸漂砂量の岸沖分布の与え方など、計算条件の詳細。
 - 水深による粒径の違いと、それを踏まえた、河川からの供給を期待する土砂の量、質。
 - 汀線が前進している要因を分析したうえでの、沿岸漂砂量の岸沖分布の与え方等。
 - 沖側まで必要断面を確保するか否かの考え方。

○今後の予定

- ・ 次回の開催は、12月を予定する。
- ・ 離岸堤、養浜計画（汀線変化）については、別途審議いただく時間を調整する。